

## ラテン・アメリカ政経学会 2019年度総会資料

2019年11月17日(日) 12時30分～13時30分  
獨協大学W-313 教室

### 議事次第

#### 審議事項

1. 2018年度活動報告(理事長) (資料1)
2. 2018年度会計報告(宮地理事) (資料2)
3. 2019年度事業計画(理事長) (資料3)
4. 2019年度予算(宮地理事) (資料4)
5. 招聘講演者への論文提出依頼について(清水理事) (資料5)
6. 次期理事会について(理事長) (資料6)
7. その他

#### 報告事項

1. 会誌 No.53 の発行について(住田理事) (資料7)
2. 会員の入退会について(理事長) (資料8)
3. 2020年度全国大会開催校(理事長)
4. その他

## 資料 1

### 2018 年度活動報告

2018 年度に以下の事業を行った。

- (1) 12 月 1 日～2 日に神田外語大学で全国大会を開催した。
- (2) 『ラテン・アメリカ論集』 第 52 号を発行した。
- (3) 研究奨励賞については、今年度は応募がなかったので該当なしとなった。
- (4) 2019 年 4 月 21 日に同志社大学烏丸キャンパスにて、関西部会を開催した。
- (5) 地域研究学会連絡協議会、地域研究コンソーシアムの加盟学会として関係学会と交流した。
- (6) 学会ホームページを更新して社会に情報を発信するとともに、メーリングリストを通じた会員向け情報提供のサービスを提供した。ホームページについては、学会の基礎情報の英訳作業に着手した。

\* 北京外国語大学で 9 月 27 日に開催予定だったラテンアメリカ研究東アジアネットワーク (East Asian Network of Latin American Studies) の合同研究会は、中国政府から開催の許可が得られなかったため、キャンセルとなった。

ラテン・アメリカ政経学会  
2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）会計報告  
（2019年3月31日現在）

収入の部			支出の部	
前期繰越金	3,544,428	A		
会員会費収入	1,016,000		全国大会開催関係費	226,203
（個人会員）	1,016,000		学生会員への旅費補助	0
（維持会員）	0		印刷費	503,107
雑収入	19		消耗品費	2,055
（預金利息）	19		通信費	67,453
			事務局経費	35,368
収入合計	1,016,019		支出合計	834,186
差引残高（収入－支出）	181,833	B		
			次期繰り越し金（A+B）	3,726,261

会計監査報告

上記の2018年度会計報告は、領収書ほかの証拠書類と照合したところ、適正に処理されていると認めます。

2019年 11 月 11 日

監事

岡田 亨

印

監事

舩方 周一郎



2019 年度事業計画（案）

2019 年度に以下の事業を行う。

- (1) 11 月 16～17 日に獨協大学で全国大会を開催する。
- (2) 『ラテン・アメリカ論集』第 53 号を発行する。
- (3) 地域部会を開催する。
- (4) 地域研究学会連絡協議会、地域研究コンソーシアムの加盟学会として関係学会と交流する。
- (5) 研究奨励賞の選考委員会を設置して選考を行い、受賞者を決定する。
- (6) 学会ホームページを通じて社会に情報を発信するとともに、メーリングリストを通じた会員向け情報提供のサービスを提供する。ホームページの国際化を進める。
- (7) 国際学術交流を実施する。
  - 1) ラテンアメリカから研究者を招聘する会員への補助事業の実施
  - 2) 日中韓ラテンアメリカ研究ネットワークへの参加
- (8) その他、本会の目的に合致する事業。

## 資料 4

## 2019 年度予算 (2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日) (案)

(2019 年 11 月 13 日作成)

収入の部			支出の部	
前期繰越金	3,726,261	A		
会員会費収入	850,000		全国大会開催関係費	250,000
（個人会員）	850,000		学生会員への旅費補助	25,000
（維持会員）	0		印刷費	430,000
雑収入	20		消耗品費	5,000
（預金利息）	20		通信費	70,000
			事務局経費	70,020
収入合計	850,020		支出合計	850,020
差引残高（収入－支出）	0	B		
			次期繰り越し金（A+B）	3,726,261

## 資料 5

### 招聘講演者への論文提出依頼について

#### <提案内容>

全国大会において学会が費用を負担して講演者を招聘する際には、講演の依頼と合わせて講演内容の論文提出を依頼することを提案します。

#### <提案理由>

『ラテン・アメリカ論集』は掲載する論文の確保に苦勞することがあります。過去3年をみても、2018年 No. 52 は研究論文と研究ノートが合わせて3本ありましたが、それ以外の2号は1本で、いずれも依頼論文を掲載してボリュームを確保しています。

依頼論文については、全国大会の講演者（招聘講演者、特別講演者）の論文を依頼論文として掲載しました。No. 51 では、2017年全国大会の招待講演者に講演内容を事前に論文として提出してもらい、講演後に修正した論文を掲載しました。それに対して No. 53 では、2018年全国大会の特別講演者に原稿の提出を依頼しましたが、2019年10月に提出された原稿は、講演の内容とは異なっていました。この原稿については、英文監修は学会の費用で行いましたが、内容については編集委員の方で十分に検討することができませんでした。できるだけ質の高い依頼論文を確保するためにも、全国大会において学会が費用を負担して講演者を招聘する際には、講演の依頼と合わせて講演内容の論文提出を依頼することを提案します。こうすることで、論文の内容を事前に把握できるだけでなく、必要に応じてコメントをつけて修正してもらうことも可能になると思います。

ご検討いただければ幸いです。

2019年11月16日

『ラテン・アメリカ論集』編集委員会

2019年11月16日

『ラテン・アメリカ論集』編集委員報告

『ラテン・アメリカ論集』53号の編集作業の進行状況について報告します。

53号の内容は研究論文1本、書評5本です。依頼論文は、第54回全国大会待講演者のアントーニオ・ジョゼー・ジュンクエイラ・ポテーリョ氏(カンディド・メンデス大学)に「グローバル相互依存、エネルギー安全保障、国内工業発展—日本とブラジルの外国石油関係」(原題 Global Interdependence, Energy Security and Domestic Industrial Development: Japan Foreign Oil Relations with Brazil)と題する論文を寄稿していただきました。投稿論文は3本で、2名の査読者による審査により、1本を研究論文として掲載することになりました。書評は、会員が著者または編者となって2019年5月頃までの1年間に出版された本を取り上げました。詳しくは次ページをご覧ください。

印刷は昨年と同じプリントボーイにお願いし、冊子200部を学会事務局へ(12月予定)、論文抜き刷りを各執筆者に50部ずつ送付するよう依頼してあります。

なお、今年度は研究奨励賞の該当者がありませんでしたので、学会消息のみを掲載しました。

最後になりましたが、編集にあたってご協力いただいた会員の皆様に、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

2019年11月16日

住田育法

『ラテン・アメリカ論集』53号編集担当幹事

『ラテン・アメリカ論集』2019 No. 53  
合計 112 ページ（表紙、目次、奥付を除く）

< 依頼論文 >

Global Interdependence, Energy Security and Domestic Industrial Development:  
Japan Foreign Oil Relations with Brazil

Antonio José Junqueira Botelho

< 研究論文 >

いかにしてクライアンテリズムは個人支配体制の脆弱性を規定するのか：  
ニカラグアとパラグアイの比較から

大澤 傑

< 書評 >

村上勇介 編

『「ポピュリズム」の政治学—深まる政治社会の亀裂と権威主義化—』

上谷直克

堀坂浩太郎・子安昭子・竹下幸治郎 共著

『現代ブラジル論—危機の実相と対応力』

河合沙織

浜口伸明 編

『ラテンアメリカ所得格差論：歴史的起源・グローバル化・社会政策』

安原 毅

星野妙子 編

『メキシコの 21 世紀』

山本純一

清水達也 編

『途上国における農業経営の変革』

村瀬幸代

< 学会消息 >